

# 水辺の安全と楽しさ体感

B & G財団(梶田功会長)では、平成21年度から都内の小学校を中心に「水辺の安全教室」を実施している。これは、水辺の自然活動の推進と溺水事故防止を目的としたもので、身近な道具をつかった救助体験やライフジャケット浮遊体験など同財団が考案した「水の安全プログラム」を通じて、事故に遭わないための学習や対処法を身につけるといったもの。今年も都内の15校で行われ、うち2校は全学年児童が水泳授業の一環として受講した。同財団の東條剛之さんが同事業の内容について寄稿してくれた。

(写真提供:B & G財団)

B & G

## 悲しい事故を防ぐ

### クイズ形式取り入れ学ぶ

B & G財団  
広報課 東條 剛之

今年の夏も、海や川で 国内の海水浴客数は減少  
元気に遊ぶ子供たちの姿を続けており、昨年は約  
を見たが、残念なことに 990万人とピークだっ

た1985年(約379 年中における水難の概  
0万人)の4分の1とな 況)によると水難事故の  
っている。発生件数は、  
その主な原因としてレ っている。発生件数は、  
ジャーの多様化が上げら っている。発生件数は、  
れているが、毎年起こる 前後で推移しており大き  
溺水事故も要因の一つで な変化はないが、海水浴  
はないだろうか。警察庁 客が減少傾向にあること  
が発表している「平成24 を考慮すると、事故発生

率が上昇している現実が  
見えてくる。

今年も波打ち際で遊ん  
でいた子供が波にさらわ  
れた事故や、川で流され  
た事故などが発生してい  
る。楽しい家族のひと時  
が、一瞬にして終わって  
しまう水の事故は、「悲し  
い」の一言に尽きる。こ  
ろ。

紙芝居を行っている。前学習の意味合いも持た  
せ、水辺の安全に関する けに浮かぶ「背浮き」に  
よって呼吸が確保できる  
ことを体験させており、  
最後にライフジャケット  
の対応などについて、子  
供たちの興味を引けるよ  
う、楽しくクイズ形式で  
わ、浮く！」と驚きの歓  
声が広がる。

紙芝居の説明の中で溺  
に浮き呼吸すること」が  
いかに難しいかを実感し  
ているため、ライフジャ  
ケットの効果が一瞬にし  
てわかる。

参加した子供たちから  
「背浮きを習ったのが  
一番楽しくて、溺れない  
ための勉強になった」な  
どの声が寄せられ、学校  
からもぜひ来年も実施し  
てほしいとの依頼を毎年  
受けている。

その中で、実際にできる  
は「背浮きを習ったのが  
一番楽しくて、溺れない  
ための勉強になった」な  
どの声が寄せられ、学校  
からもぜひ来年も実施し  
てほしいとの依頼を毎年  
受けている。

このような体験を通じ  
て、水面に浮いて救助を  
供たちが、元気に、そし  
て安全に海洋性レクリエ  
ーションを楽しむことが  
できるよう、今後も水辺  
の安全教室の機会を積極  
的に提供していきたいと  
考えている。

その後、ペットボトル  
を使った浮き身の体験を  
通じて、水に浮くものが  
的に提供していきたいと  
考えている。

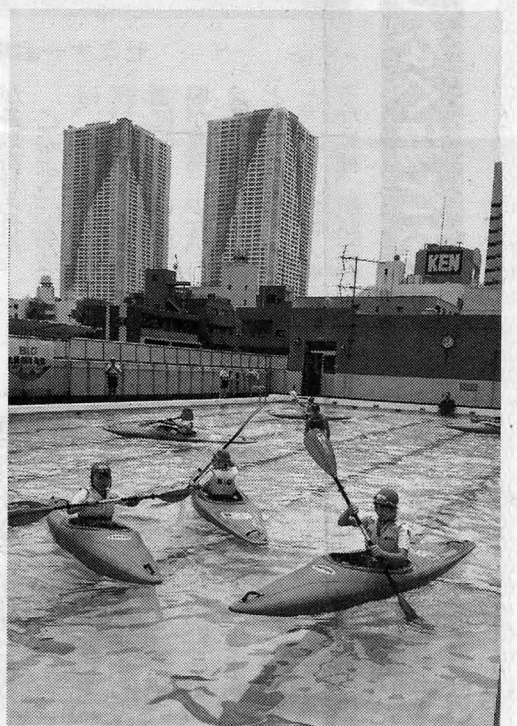
「うわ、浮く！」とライフジャケットの効果一瞬で理解



ペットボトルを使った浮き身の体験



ライフジャケットを着けて



カヌーの乗船体験